令和７年度　研究構想図　板橋区立下赤塚小学校

社会的背景

・コロナ禍による体力の低下
・ライフスタイルの多様化
・TOKYO2020のレガシー
・人生100年時代を生きる

学校の教育目標

・考える子ども
・明るい子ども
・強い子ども

保護者・地域の願い

心身共に健康な子供を
社会・地域・学校の
全体で育てていきたい。

研究主題

健康で活力に満ちた児童の育成
～体育・健康・食に関する学びの向上を目指して～

研究仮説

児童と様々な運動やスポーツ、生活習慣、食生活との印象的な出会いがあり、自己の課題に適した場における学びがあれば、継続して運動やスポーツに親しみ、自らの健康を意識し、改善しようとする態度が育つだろう。

児童の実態

＜運動・体育＞

・運動に対して「難しそう」と感じるとチャレンジしたがらない児童がいる。
・体育の授業以外では、取り組む運動が限られている。

＜健康に関する意識＞

・規則正しい生活ができない児童がいる。
・感情コントロールが苦手な児童がいる。

＜食に関する意識＞

・食べたことのないものへの抵抗感が強い。
・健康への意識と「食」がつながっていない。

研究の柱

・運動との出会い
・運動の楽しさや喜びを味わわせるための工夫
・２時目以降の学習での指導の個別化
・振り返りの工夫

研究の柱

・これまでの自分との出会い
・生活を見つめ直し、自己を高めるための工夫

研究の柱

・「食」との新たな出会い
・食を学ぶ　食で学ぶ

体育指導の手立て

・外部人材との連携
・幅広い運動に関心をもつためのきっかけとなる出会い
◎指導の個別化に適した単元デザインの構築
・毎時間のねらいに合った振り返り

保健指導の手立て

・体育科保健領域の授業改善
・学級活動等の時間に行う保健指導の充実
◎健康づくりの基本となる時間を創設

食育指導の手立て

・各学年での食に関する指導の充実
（教科・領域等における学習の見直し）
◎給食の教材化
・外部人材の導入による出前授業や、体験活動
・学習したことを家庭で活かす

目指す児童像

運動やスポーツに親しみ、自らの健康を意識し、改善しようとする子